

当院における胸水・腹水・CAPDの培養方法の比較

◎巽 宥菜¹⁾、李 相太¹⁾、龍見 重信¹⁾、平野 絵美¹⁾、宇井 孝爾¹⁾、小泉 章¹⁾、大西 雅人¹⁾、倉田 主税¹⁾
奈良県立医科大学附属病院¹⁾

【目的】当院における穿刺液の培養検査は、遠心分離後の沈渣を用いる方法（遠心）と血液培養ボトルに直接添加する方法（BCB）により行われている。これらは片方または両方が複数同時に依頼される場合がある。本研究では胸水、腹水、持続的外来腹膜透析排液（CAPD）の培養検査における二つの方法について後ろ向きに比較した。

【方法】「遠心」は3,000rpmで8分遠心分離した沈渣をチョコレート寒天培地（日本BD）、5%ヒツジ血液寒天培地、ブルセラHK寒天培地、HK半流動生培地（いずれも極東製薬工業）に接種した。「BCB」はBACT/ALERT®専用培養ボトル好気用・嫌気用プラスチックボトル（BIOMÉRIEUX）を用いた。対象は、2007年1月から2023年10月に検体採取時に同時に2検体が提出された症例（①遠心+遠心、②BCB+BCB、③遠心+BCB）とし、同時に提出された検体が両方培養陽性を示した場合を「陽性結果一致」とした。また③において遠心とBCBの差異をMcNemar's testで、一致度をKappa係数で評価した。

【結果】依頼数は胸水：①97例、②5例、③258例、腹水

：①298例、②8例、③101例、CAPD：①7例、②19例、③308例であった。陽性結果の一致率は、胸水：①62.5%、②50.0%、③41.7%、腹水：①53.4%、②66.7%、③63.6%、CAPD：①60.0%、②71.4%、③78.6%であった。③の遠心とBCBの比較では、胸水、腹水、CAPDにおけるMcNemar's testのp値はそれぞれ0.593、0.724、0.178と有意差はなく、Kappa係数はそれぞれ0.559（弱い一致）、0.730（中程度一致）、0.811（強い一致）を示した。

【結語】検体の種別により遠心とBCB間で一致度に差異を認めたが、同一の方法での陽性結果においても一定の差異があり、遠心とBCBのどちらかの明らかな優位性は認められなかった。

連絡先 0744-22-3051（内線 1231）